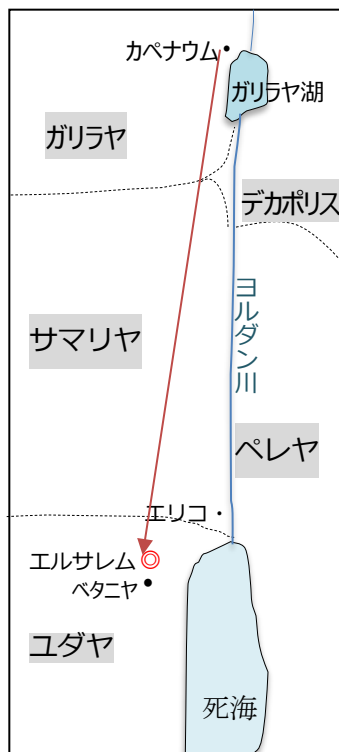


「救い主イエスを伝える」



主イエスは「仮庵の祭り」の後ガリラヤに帰らず、ユダヤ地方に留められた。その目的はご自分が救い主であることを、ユダヤ人たちに知らせることである。

旧約聖書の救い主の預言通り生まれ、生き、死なれた方は、歴史上唯一人、主イエスだけである。赤子で生まれ、生きて、死ぬ。その繰り返しの人間の歴史の中で、人が冤罪^{えんざい}で死刑になったとしてもただ一人の人間の死でしかない。しかし、神の独り子である神が十字架で死なれ、復活されたことは、絶大な意味がある。

天地創造の神が、御子イエス・キリストの身代わりの十字架を信じる人を赦され、受け入れられるのである。その人は神により自分の咎^{とが}が取り除かれ、神により、罪から解放された体験と、キリストにある永遠のいのちを頂くことが許されるのである。

これは神が御子イエス・キリストの勲功^{いさおし}を受け入れられたからである。滅びから救われた私たちの使命は、救い主イエスが人となって来られた神であることを伝え、私たちを通して、キリストの十字架の救いを現す事である。

[聖書の学び]

I、弟子たちを遣わされる主イエス

(ルカ 10:1～4)

1、主イエスはユダヤ地方に伝道しようと思っておられましたが、まず、どのようにされましたか。(ルカ 10:1)

- ・ 72 人を選ぶ(12 弟子とは別に)
- ・ 自分が行くつもり^{つもり}の全ての町や村(後にペレヤ地方にまで行かれた)
- ・ 先に 2 人ずつ遣わされた(主イエスは 12 月を過ぎてからその各地を巡られた)

2、主イエスが彼らを遣わす目的は何なのでしょう。(ルカ 10:2)

- * 収穫の主：主イエスご自身(十字架・復活後、主として祈りを聞いて下さるという預言的暗示)
- * 働き手：各地に住みながら、その地域の人々によき証をし、伝道する人

3、働き手を得るために、72 人はどのように言われましたか？

(ルカ 10:4～9)

- ・手ぶらで行く—————何も持って行かない。(v4)
- ・神様に導かれたと信じる家に入って行く—————平安を祈る。(v6)
- ・出された食事を一緒に食べる—————報酬として受け取る(v7)
- ・その町の病人を癒す—————主イエスの権威(v19)
- ・「救い主がこられて、神の国が近づいた」と語る——救い主のイエス様を伝える(v9)

Ⅱ、遣わされる弟子の心得

(ルカ 10:3~16)

1、主イエスは困難な働きのための注意を語られました。

①主イエスのことを伝えるということ、何に喩えられましたか？ (v3)

*小羊：牧者の保護がある者

②町の人々に受け入れられないときは、どのようにしたらいいのでしょうか？
(v10,11)

2、主イエスが遣わした 72 人は、最終的にはどなたが遣わすことになるのでしょうか？ (v16)

Ⅲ、帰ってきた弟子たちの報告

(ルカ 10:17~20)

1、喜んで帰って来た 72 人ですが、彼らが伝道しているとき、主の目には何が見えていたのでしょうか？ (v18)

2、主イエスは、本当は彼らにどのような権威を与えておられたのでしょうか？ (v19)

3、信じる私たちにとって、一番喜ぶべきことは、何でしょうか？

(v20)

* **ディスカッション** (心を開いて互いに話し合ってみましょう)

Q. 今日の学びについて、思うこと、教えられたことを、分かち合いましょう。